未来を担う世代が望む働き方・生き方とは

manma社長
新居（におり） 日南恵（ひなえ）

私は約7年前、大学1年生の時に、任意団体としてmanmaという組織を立ち上げた。その後、2017年に株式会社化し、企業や自治体の皆さんと連携して、若い世代向けのライフデザイン（ライフイベントを含めたキャリアプランについて考える）プログラムを届けてきた。本稿では筆者自身の経験や、これまでプログラムを届ける中で出会った若い世代の声をもとに、未来を担う世代が望む働き方・生き方について考えていきたい。

事業を開始した際の課題意識

manma設立の課題意識は高校時代にさかのぼる。私が高校時代を過ごした2010～2013年は、未来の不確実性が高まる中、若者に自ら人生を切り開く力を持ってほしいとの趣旨で、様々な団体がキャリア教育の機会を提供していた。私自身も、カタリバというNPO団体に出会ったことをきっかけに、多様なキャリアのロールモデルに出会うことになる。

しかし、次第にキャリア教育が職業キャリアに絞られていることに疑問を感じるようになった。共働き家庭で育った私は、将来は仕事も子育ても両立したいと自然と考えるようになっていた。子どもが生まれれば、仕事と家庭のバランスを取ることが求められるようになるだろう。仕事を優先したいからといって結婚や出産を遅らせることは、妊娠や出産に関わる様々なリスクを高めることにも繋がりかねない。このように、結婚や子育ては仕事のキャリアと密接に結び付いているにもかかわらず、全く言及がなされないのはおかしいと思うようになったのだ。

そこで、職業キャリアを考えるのと同じように、結婚や子育てについても選択肢を知ったうえで、自ら考え選択すること、すなわちライフデザインを支援するために、2014年大学1年次にmanmaという団体を立ち上げた。そして、未就学児の子どもがいる子育て家庭に、将来の仕事と結婚や子育てを含むキャリア設計に悩みを抱える若者が、いつでも相談に行ける「家族留学」という取り組みを始めた。

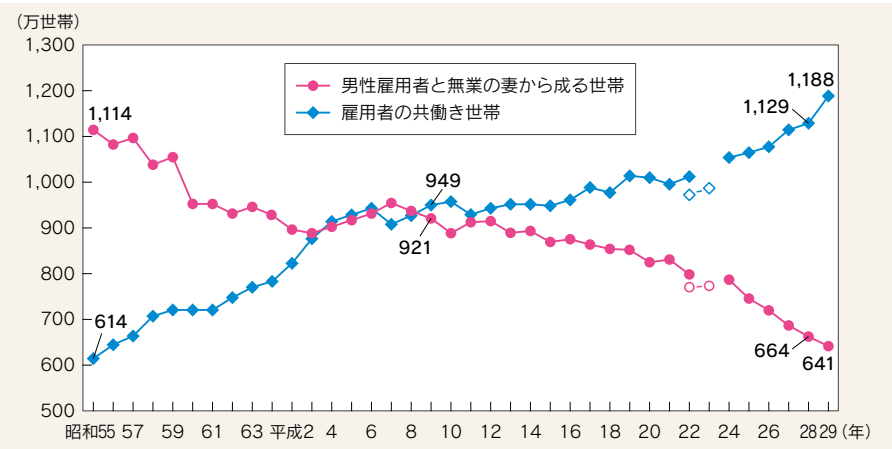
若者は一日、子育て家庭を訪問し、実際に子どもと触れ合って子育て中の家庭の日常を体験する。それだけではなく、子育てをする方々のキャリアの話を聞き、これからの人生設計のヒントにするのだ。家族留学は「こんな機会が欲しかった！」という、首都圏を中心として仕事と子育ての両立を意識する若い世代の声に後押しされ、全国24の都道府県に広がった。「若い世代に自分の経験を役立ててほしい」という受け入れ家庭に支えられ、

今年で6年目を迎える。

家族留学を通じ、将来の仕事と子育ての両立に対する不安を解消

プログラムを始めた当初の主な参加者は大学生で「仕事と子育て」の両立に対して不安を感じている人から、続々と申し込みがあった。大学生の時からそんな先のことを考えても仕方ないと思う方もいるかもしれないが、若い世代が両立に直面する前から、長期的なキャリア設計に既に不安を感じているのが実情だ。実際にプログラム参加者は家族留学を通して、企業の支援体制が十分に整い始めている中で、自治体や企業が提供する家事・育児支援サービスを活用して、仕事と子育ての両輪で人生を楽しむ事例を知ることが出来た。このように「キャリア中心思考であるが故に持っていた不安が、ロールモデルの生き方への共感や目標の発見を通して解消される」様子を目の当たりにしてきた。

図表　共働き等世帯数の推移



出所：内閣府男女共同参画白書平成30年版

求められるロールモデル ―男性の家事・育児への積極的参画

その後、男性の家事・育児への参画に注目が集まり始めたことをきっかけに、2014年の開始当時は1割程度だった男性の参加者も、2020年には全体の3割前後に増加した。

私の生まれた1994年前後は、ちょうど共働き世帯と専業主婦世帯の数が逆転したタイミングだ。ただ、共働き世帯は増加したものの、女性が家事・育児を中心的に担うという状況が変わらなかったため、今の若い世代の多くは、男性が育児や家事に積極的に関わるロールモデルを持っていない。そうした例を探して、大学生や若手の社会人がこのプログラムに多く参加している。

会社で初めて育休を取得した男性はもちろん、妻の復職をサポートするため、長期で育児休業を取り、妻が先に復職した方もいる。男性が大黒柱で、女性がそれを支えるという性別役割分業にとらわれない事例が存在する。その中でも特に印象的な家庭がある。元々共働きで子育てしていたが、妻が医師を目指すことを決め、退職した。そして、医師になったタイミングで、夫が退職し専業主夫となった。まさに年齢やこれまでのキャリアトラックにとらわれない職業選択と、家族の役割分担の選択を組み合わせたからこそ実現出来たのだと感じる。

未だに、仕事と子育ての両立や家庭内の性別的役割分業に関する課題も多く残る中、仕事だけではなく結婚や子育ても含めて、多様な選択肢を提示し、それを実現可能にする社会にしていくことが、非常に重要であると考えている。

転職や副業など多様なキャリア選択が広がり、個々人のユニークな価値創造が期待される時代だからこそ、結婚や子育てについても多様な形を応援することで、一人ひとりの活躍を大きく後押しするのではないだろうか。